

# シラヒゲウニの放流技術開発事業（概要）

島袋新功・牧野清人

## 1. 目的及び内容

シラヒゲウニの放流適正種苗及び放流技術の開発を行い、資源添加によるウニ漁業の発展を図る。

本事業は、国庫補助事業「放流技術開発事業（定着性種、平成7年度～11年度）」を受け、放流適正

種苗開発を県栽培漁業センターが、放流技術開発、基礎技術開発調査、放流環境要因調査を本場が分担実施した。ここでは、シラヒゲウニの種苗放流、放流追跡調査の概要を記した。

## 2. 結果

### 1) 種苗放流（表1）

年/月/日	個数	殻径（最大～最小）mm	放流場所
8/11/19	27,425	11.7 (34.3～4.2)	今帰仁村古宇利地先
8/12/04	22,696	16.1 (35.6～4.7)	与那城町伊計地先
計	50,121		

### 2) 追跡調査

平成7年11月・与那城町宮城地先放流ウニ（表2）は、成長とともに生息範囲を広げ、平成8年6月には殻径78mmの漁獲サイズに成長、生残率31%、移動範囲100m以内で、その後漁獲（漁獲率97%）されて減少した。

平成8年11月・今帰仁村古宇利地先放流ウニ（表3）は、平成9年3月で殻径48mmに成長、生残率12.3%であった（調査継続）。

平成8年12月・与那城町伊計地先放流ウニは、約2ヶ月後の調査で全く出現せず全滅したと考えられた。

表2. 与那城町宮城地先の放流ウニ追跡調査結果 \*1トランセクトはN→S、W→Eで各200m \*\*密度：N/m<sup>2</sup>

年/月/日 (経過日数)	殻径mm 平均(最大-最小)	生息状況					備考
		*1トランセクト外範囲m	面積m <sup>2</sup>	**密度	個体数	生残率	
7/11/ 1( 0)	16.0(32.3- 3.5)	N95-104、W95-104	81	62.37	5,052	100%	放流
7/12/ 7( 36)	35.8(51.1-16.4)	N80-153、W90-115	912	1.89	1,723	34.1	
8/ 2/29(120)	61.6(70.3-52.3)	N52-130、W99-131	1,248	1.36	1,697	33.5	
8/ 4/23(174)	72.6(80.9-61.4)	N31-124、W62-146	3,906	0.42	1,640	32.5	
8/ 5/22(203)	75.6(81.6-64.0)	N20-133、W63-145	4,633	0.29	1,343	26.6	
8/ 6/20(232)	78.0(84.5-67.7)	N 1-122、W66-145	4,779	0.33	1,577	31.2	漁獲
8/ 7/16(256)	81.4(84.8-77.8)	N 1-122、W66-145	4,779	0.01	43	0.9	調査終了

表3. 今帰仁村古宇利地先の放流ウニ追跡調査結果 \*3トランセクトはN→S、W→Eで各100m

年/月/日 (経過日数)	殻径mm 平均(最大-最小)	生息状況					備考
		*3トランセクト外範囲m	面積m <sup>2</sup>	**密度	個体数	生残率	
8/11/19( 0)	11.7(34.3- 4.2)	N45-58、W47-57	130	210.1	27,425	100%	放流
9/ 1/ 9( 51)	31.2(53.0-11.3)	N41-63、W42-66	264	20.4	5,378	19.6	
9/ 3/ 7(108)	48.1(64.1-29.8)	N37-73、W47-79	576	5.8	3,386	12.3	調査継続